

令和7年度（2025年度）

中学校社会科用

「新編 新しい社会 歴史」

年間指導計画作成資料

令和7年（2025年）1月29日版

※単元ごとの配当時数、学習目標、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

歴史的分野

指導計画表・評価規準

※本資料で1時間ごとに示している評価規準の例は、学習改善につなげるための形成的な評価の一例であり、必ずしも1時間ごとに事実的な知識の獲得を評価する趣旨ではありません。

評価の観点	知技	知識・技能
	思判表	思考・判断・表現
	態度	主体的に学習に取り組む態度
評価規準の例	○	評定に用いる評価
	●	学習改善につなげる評価

歴史学習の初めに

(配当1時間)

◆評価規準の例

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
1	p.2～3	■持続可能な社会の実現に向けて	・歴史的分野の学習を始めるにあたって、歴史を学習する意義について考える。	態度	●歴史を学習する意味について考え、歴史学習を通して過去から受け継がれた経験などを学ぶだけでなく、持続可能な社会の実現に生かそうとし、これからの歴史学習への見通しを持とうとしている。
			・持続可能なよりよい社会の実現に向けて歴史を生かしていこうとする態度を身に付けるきっかけとする。		

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させる。	知識・技能	○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。
	・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。		○資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。
	・具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。		○具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。
	・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現させる。	思考・判断・表現	○時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。
	・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。		○自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
1 節 歴史をとらえる見方・考え方					
2	p.8～9	歴史の流れ	・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解する。 ・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。 ・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現する。 ・歴史の表現方法や歴史的な見方・考え方といった歴史をとらえる方法を、主体的に追究しようとする。	知技	○年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解している。
3	p.10～11	1 時期や年代の表し方		知技	○資料から歴史に関わる情報を読み取り、年表などにまとめることができる。
4	p.12～13	2 歴史の流れのとらえ方		思判表	○時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などを、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。
5	p.14～15	3 時代の特色のとらえ方		態度	○歴史の表現方法や歴史的な見方・考え方といった歴史をとらえる方法を、主体的に追究しようとしている。

2 節 身近な地域の歴史					
6	p.16～17	1 テーマと問いを設定して調査・考察しよう	<ul style="list-style-type: none">・具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。	知技	○ 様々な手段で地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などに適切にまとめたりしている。
				思判表	○ 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。
7	p.18～19	2 まとめと発表しよう		態度	○ 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各参考事例とも 1 時間配当）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.40～41	大陸への玄関口 福岡	・書籍やインターネット、身近な地域に残る遺跡や博物館を調べ、情報を集めて年表などにまとめる技能を身に付け、福岡が大陸とどのような交流があったかを理解する。	知技	○調査して収集した課題に関連する情報を、年表などに適切にまとめている。
				知技	○調査活動を通じて、福岡が大陸とどのような交流があったかを理解している。
			・身近な地域の歴史に関する情報を年表などに整理し、比較や関連付け、現在の私たちとのつながりに着目して、身近な地域の歴史の特徴を考察し、表現する。	思判表	○身近な地域の歴史に関する情報を表などに整理し、身近な地域の歴史の特徴を多面的・多角的に考察している。
			・身近な地域に残る遺跡や博物館から、地域の歴史に対する関心を高め、自ら課題を設定し、追究、解決しようとする態度を身に付ける。	態度	○身近な地域の歴史について、地域の歴史の特徴を明らかにしようとする学習を振り返りながら、主体的に課題を追究、解決しようとしている。
-	p138～ 139	藩の政治と産業 会津	・博物館や地元の人への聞き取りを行う際に、追究する課題に対する見通しを持って調査を行い、収集した情報を整理する技能を身に付け、会津藩でどのような政治が行われたのかを理解する。	知技	○博物館や地元の人々への聞き取りから、課題の解決に関連する情報を収集し、適切に整理している。
				知技	○調査活動を通じて、会津藩でどのような政治が行われたのかを理解している。
			・身近な地域の歴史に関する情報を年表などに整理し、比較や関連付け、現在の私たちとのつながりに着目して、身近な地域の歴史の特徴を考察し、表現する。	思判表	○身近な地域の歴史に関する情報を表などに整理し、身近な地域の歴史の特徴を多面的・多角的に考察している。
			・身近な地域の歴史に関心をもち、博物館での調査や地元の人への聞き取り調査を通して、自ら課題を設定し、追究、解決しようとする態度を身に付ける。	態度	○身近な地域の歴史について、地域の歴史の特徴を明らかにしようとする学習を振り返りながら、主体的に課題を追究、解決しようとしている。
-	p.164～ 165	幕末を生きた先人たち 福井	・博物館や他地域の人々への聞き取りを行う際に、追究する課題に対する見通しを持って調査を行い、収集した情報を整理する技能を身に付け、福井の人々が幕末の江戸幕府とどのように関わり、影響を与えたか理解する。	知技	○博物館や他地域の人々への聞き取りから、課題の解決に関連する情報を収集し、適切に整理している。
				知技	○調査活動を通じて、幕末の福井の人々が江戸幕府とどう関わり影響を与えたか理解している。
			・身近な地域の歴史や先人たちの活動に関する情報を相関図などに整理したり、他地域の人々からの情報を整理したりして、比較や関連付け、現在の私たちとのつながりに着目して、身近な地域の歴史の特徴を考察し、表現する。	思判表	○身近な地域の歴史に関する情報を相関図などに整理したり、他地域の人々からの情報を整理したりして、身近な地域の歴史の特徴を多面的・多角的に考察している。
			・身近な地域の歴史や先人たちの活動に関心をもち、博物館での調査や他地域の人々への聞き取り調査を通して、自ら課題を設定し、追究、解決しようとする態度を身に付ける。	態度	○身近な地域の歴史について、地域の歴史の特徴を明らかにしようとする学習を振り返りながら、主体的に課題を追究、解決しようとしている。

-	p.182～ 183	明治維新のまちづくり 新潟	・デジタルアーカイブや身近な地域にある博物館等で調べ、情報を集めて地図などにまとめる技能を身に付け、明治維新の影響で新潟がどのように変化したか理解する。	知技	○ デジタルアーカイブや博物館等での調査などの方法で地域の歴史を調べ、情報を集めて地図などにまとめる技能を身に付けている。
				知技	○ 調査活動を通じて、明治維新の影響で新潟がどのように変化したか理解している。
			・身近な地域の歴史に関する情報を地図などに整理し、比較や関連付け、現在の私たちとのつながりに着目して、身近な地域の歴史の特徴を考察し、表現する。	思判表	○ 身近な地域の歴史に関する情報を地図などに整理し、身近な地域の歴史の特徴を多面的・多角的に考察している。
			・身近な地域に残る文化財に関心をもち、収集した情報をまとめて、自ら課題を設定し、追究、解決しようとする態度を身に付ける。	態度	○ 身近な地域の歴史について、地域の歴史の特徴を明らかにしようとする学習を振り返りながら、主体的に課題を追究、解決しようとしている。
-	p.238～ 239	被爆建物の保存と継承 広島	・身近な地域に残る被爆建物の継承や解体に至る過程を調べ、情報を集めて表などにまとめる技能を身に付ける。	知技	○ 被爆建物を継承する意義を考えるために必要な様々な視点からの情報を表などにまとめる技能を身に付けている。
			・身近な地域の歴史に関する情報を表などに整理し、比較や関連付け、現在の私たちとのつながりに着目して、被爆建物を継承する意義を多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	○ 身近な地域の歴史に関する情報を表などに整理し、身近な地域の歴史の特徴を多面的・多角的に考察している。
			・プレゼンテーションを作成する過程を通して、地域の歴史的特徴を捉え、自ら課題を設定し、追究、解決しようとする態度を身に付ける。	態度	○ 身近な地域の歴史について、地域の歴史の特徴を明らかにしようとする学習を振り返りながら、主体的に課題を追究、解決しようとしている。

第2章 古代までの日本

(配当19時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。	知識・技能	○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。
	・日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。		○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。
	・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。		○律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。
	・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。		○仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。
	・古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における国家形成、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における国家形成、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
・古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。		主体的に学習に取り組む態度	○古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（導入）

(配当 1 時間)

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
8	p.22～23	■導入の活動 平城京が造られるまでの歴史を大きくながめよう	・年表にある事柄や人物、文化財のイラストから、小学校で学習した内容を振り返り、時代の特色を考える。	思判表	●資料の読み解きや比較から、この時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・写真や年表、絵画などの資料から、古代の時代のイメージと学習の見通しを持つ。	態度	●古代の日本ではどのように国家が形成されたのかという探究課題に対して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。	知識・技能	○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。
	・古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりなど、人類が生み出していったものを多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりなど、人類が生み出していったものを多面的・多角的に考察し、表現している。
	・世界の古代文明や宗教など、人類が様々なものを生み出していったことについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●世界の古代文明や宗教など、人類が様々なものを生み出していったことについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
9	p.24～25	1 人類の出現と進化	・人類が進化してきた過程や、人類の特徴を理解する。	知技	●人類の進化の過程や、人々の生活の変化を理解している。
			・土器や石器の発明によって、人々の生活が変化したことを理解する。		
			・人類の成長を置かれた環境と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●人類の成長を置かれた環境と関連付けて考察し、表現している。
10	p.26～27	2 古代文明のおこりと発展	・それぞれの古代文明にどのような特徴があったかを理解する。	知技	●それぞれの古代文明の特徴を理解している。
			・古代文明がおこった地域の特徴について、成立した位置や場所に着目して考察し、表現する。	思判表	●古代文明がおこった地域の特徴について、成立した位置や場所などの共通点に着目して考察し、表現している。
11	p.28～29	3 中国文明の発展	・中国の古代文明それぞれの王朝の特徴を、様々な資料を通して理解する。	知技	●中国の古代文明それぞれの王朝の特徴を理解している。
			・中国の古代文明の王朝の移り変わりを、王朝の特徴の違いに着目して考察し、表現する。	思判表	●中国の古代文明の王朝の移り変わりを、王朝の特徴を比較しながら考察し、表現している。
12	p.30～31	4 ギリシャ・ローマの文明	・ギリシャ・ローマの文化と政治や社会の仕組みの特色を理解する。	知技	●ギリシャやローマがどのような政治制度を取って発展したかを理解している。
			・ギリシャ・ローマ文明の特徴について、現在の政治制度やヨーロッパ文化との関係に着目して考察し、表現する。	思判表	●ギリシャ・ローマ文明の特徴について、現代の政治制度やヨーロッパ文化との共通点に着目して考察し、表現している。
13	p.32～33	5 宗教のおこりと三大宗教	・三大宗教のおこりと特色について、その概略を理解する。	知技	●仏教、キリスト教、イスラム教の特徴の概略を理解している。
			・三大宗教がおこった地域の特徴について位置や場所に着目して考察し、表現する。	思判表	●三大宗教が成立した地域が、西アジアやインドなど、古代文明が発展した地域と重なっていることを考察し、表現している。
	p.60	■探究のステップ	・ウェビングを活用して、人類が誕生し、成長していく中でどのように様々な文物を生み出していったかを考察・表現し、古代文明や宗教のおこりを理解する。	知技	○古代文明の特徴や宗教の概略を理解している。
				思判表	○古代文明や宗教など、人類が誕生してから生み出してきたものを、環境の変化や人類の成長などと関連付けて考察し、表現している。
				態度	●世界の古代文明や宗教など人類が生み出してきたものについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。	知識・技能	○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。
	・農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
14	p.34～35	1 旧石器時代と縄文時代の暮らし	・日本列島における旧石器時代の人々の生活の様子を理解する。	知技	●様々な資料から、日本列島で狩猟・採集の生活を行っていた人々の生活の特徴について理解している。
			・縄文時代の人々の暮らしの特徴を、当時の自然環境と関連付けて考察し、表現する	思判表	●縄文時代の人々の暮らしの特徴を、当時の自然環境と関連付けて考察し、表現している。
15	p.36～37	2 弥生時代の暮らしと邪馬台国	・弥生時代の人々の生活の様子と、日本における国家形成の過程を理解する。	知技	●弥生時代の人々の生活の様子と、日本における国家形成の過程を理解している。
			・弥生時代に日本の国家が形成されていく過程について、東アジアとの関わりに着目して考察し、表現する。	思判表	●中国の文献などから、国家が形成されていく過程について大陸の影響に着目して考察し、表現している。
16	p.38～39	3 大王の時代	・大和地方を中心とした大和政権の勢力が拡大していったことを理解する。	知技	●大和政権の勢力が拡大されていく過程を、古墳の分布や鉄剣などの資料を通して理解している。
			・大和政権の勢力拡大の動きに関して、朝鮮半島の影響に着目して考察し、表現する。	思判表	●大和政権の勢力拡大の動きが朝鮮半島との交流の影響を受けていることに着目して考察し、表現している。
	p.61	■探究のステップ	・表（マトリックス）を活用して、日本の国家形成の過程を大陸の影響とを前の時代と比較しながら考察・表現し、日本列島における国家の誕生の経緯を理解する。	知技	○日本列島で国家が誕生した経緯を理解している。
				思判表	○日本列島における国家の誕生について、大陸の影響と関連付けて考察し、表現している。
				態度	●日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・聖徳太子らの政治や大化の改新、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら律令国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。	知識・技能	○聖徳太子らの政治や大化の改新、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら律令国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。
	・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。		○仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。
	・東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の政治の変化や、古代の文化と東アジアとを関連付けながら、どのように律令国家が成立したかを多面的・多角的に考察し、表現している。
	・古代の政治の変化、古代の文化と東アジアとの関わりからどのように律令国家が成立したのかについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●古代の政治の変化、古代の文化と東アジアとの関わりからどのように律令国家が成立したのかについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
17	p.42～43	1 聖徳太子の政治改革	・聖徳太子や蘇我氏が目指した国づくりや、この時代の文化の特色を理解する。	知技	●聖徳太子や蘇我氏が行った国づくりの特色を理解している。
			・聖徳太子や蘇我氏が目指した国づくりの特色について、大陸との関係に着目して考察し、表現する。	思判表	●聖徳太子や蘇我氏が目指した国づくりの特色について、隋との関係に着目して、その影響を受けたことを考察し、表現している。
18	p.44～45	2 東アジアの緊張と律令国家への歩み	・大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を理解する。	知技	●大化の改新と、その後の律令国家への展開を理解している。
			・7世紀の国内の情勢を、東アジアの動きに着目して考察し、表現する。	思判表	●律令国家を目指す国内の情勢を、中国や朝鮮半島の動きと関連付けて考察し、表現している。
19	p.46～47	3 律令国家の成立と平城京	・律令制度の内容を基に、古代国家の仕組みを理解する。	知技	●律令制度による古代国家の仕組みを理解している。
			・古代国家の仕組みについて、中国の影響に着目して考察し、表現する。	思判表	●律令による古代国家の仕組みについて、中国の影響と関連付けて考察し、表現している。
20	p.48～49	4 奈良時代の人々の暮らし	・奈良時代の人々の生活や税制度を理解する。	知技	●奈良時代の人々が様々な税を負担していたことを理解している。
			・奈良時代の人々の生活について、税や土地制度に着目して考察し、表現する。	思判表	●奈良時代の人々の生活について、税や土地制度の変化と関連付けて考察し、表現している。
21	p.50～51	5 天平文化	・代表的な文化財を通して、天平文化の特色を理解する。	知技	●天平文化が国際色豊かな文化であることを理解している。
			・天平文化の特色について、遣唐使の活動に着目して考察し、表現する。	思判表	●天平文化の特色について、遣唐使により大陸からの文物が多くもたらされたことと関連付けて考察し、表現している。

22	p.52～53	6 平安京と律令国家 の変化	・平安遷都によって、政治や社会にどのような変化があったかを理解する。	知技	● 桓武天皇の行った政治の目的、内容などについて理解している。
			・平安時代初めの政治について、奈良時代までの政治と比較して考察し、表現する。	思判表	● 平安時代初めの政治について、支配領域の拡大や仏教の広まりなどと関連付けて考察し、表現している。
23	p.54～55	7 摂関政治の時代	・摂関政治や地方政治の変化から、平安時代の政治の特色を理解する。	知技	● 10世紀に、摂関政治や土地制度など政治の在り方が変化したことを理解している。
			・平安時代の政治の特色について、これまでの政治の在り方との違いに着目して考察し、表現する。	思判表	● 10世紀の政治の在り方を、それまでからの変化に着目して考察し、表現している。
24	p.56～57	8 国風文化	・国風化した文化の特色を理解する。	知技	● 仮名文字の成立や文学作品などから、日本独特の国風文化の特色を理解している。
			・国風文化の形成について、大陸との関係に着目して考察し、表現する。	思判表	● 国風文化の形成について、大陸の文化の影響に着目して考察し、表現している。
	p.61	■探究のステップ	・国内の政治状況の変化と大陸の影響と関連付けて考察・表現し、日本がどのように律令国家を建設していったかを理解する。	知技	○ 日本がどのように律令国家を建設したかを理解している。
				思判表	○ 日本が律令国家を建設していった過程について、大陸の影響と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 古代の政治の変化、古代の文化と東アジアとの関わりからどのように律令国家が成立したかについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
-	p.58～59	{もっと知りたい!} 現代に生きる神話	・日本各地の神話がどのようなかたちで現代社会に残っているかを理解する。	知技	● 日本各地の神話が各地の伝統芸能の中で語り継がれていることを理解している。
			・各地の神話について、神楽をはじめとした各地の伝統芸能との関係に着目して考察し、表現する。	思判表	● 日本の神話は各地の様々な伝統芸能の中に生きていることを考察し、表現している。
25 26	p.60～63	■まとめの活動	・ステップチャートを活用して、古代の日本の変化に着目して考察・表現し、古代の日本でどのように国家が形成されていったのかを理解する。	知技	○ 古代の日本ではどのように国家が形成されたかを理解している。
				思判表	○ 古代の日本でどのように国家が形成されたかを、東アジアとの関わりと関連付けて考察し、表現している。
				思判表	○ 古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。※B(1)イ(イ)
				態度	○ 古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。	知識・技能	○ 鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。
	・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。		○ 南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。
	・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。		○ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。
	・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○ 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（導入）

(配当 1 時間)

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
27	p.64～65	■導入の活動 中世の武士の暮らしを探ろう	・年表にある事柄や人物、文化財のイラストから、小学校で学習した内容を振り返る。	思判表	● 資料の読み解きや比較から、この時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・写真や年表、絵画などの資料から、中世のイメージをもち、前の時代との違いを予想する。	態度	● 武士が生まれ、その支配が広がった中世の日本で、社会はどのように変化したのかという探究課題に対して、学習の見通しを持って主体的に取り組もうとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解させる。	知識・技能	○ 鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。
	・武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・武家政治の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	● 武家政治の成立について、武士が社会を動かすほどの力をもつことになった理由とそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
28	p.66～67	1 武士の成長	・武士がどのように成長したか理解する。	知技	● 武士が武力を使って成長していったことを理解している。
			・武士の成長を、都の政治状況や地方の混乱と関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 武士が次第に成長していったことを、地方で起きた戦乱と関連付けて考察し、表現している。
29	p.68～69	2 院政から武士の政権へ	・武士が政治の実権を握る過程を理解する。	知技	● 平清盛など武士が力を強め政治の実権を握る過程を理解している。
			・武士がどのように政治の実権を握ったかを、院政や兵乱と関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 武士が政治の実権を握る過程を、院政の展開や保元・平治の乱における武士の動向と関連付けて考察し、表現している。
30	p.70～71	3 鎌倉幕府の成立と執権政治	・鎌倉幕府はどのような特色を持つ組織だったかを理解する。	知技	● 鎌倉幕府が御家人との関係で成立した組織であったことを理解している。
			・鎌倉幕府の特色について、主従制度や承久の乱に着目して考察し、表現する。	思判表	● 鎌倉幕府の特色について、將軍と御家人の関係や幕府と朝廷の関係に関連付けて考察し、表現している
31	p.72～73	4 武士と民衆の生活	・鎌倉時代の武士や民衆の生活の様子を理解する。	知技	● 鎌倉時代の地頭の役割や、農業と商業の発達の様子を理解している。
			・鎌倉時代の武士や民衆の生活について、地頭の活躍や産業の発達に着目して考察し、表現する。	思判表	● 鎌倉時代の武士や庶民の生活について、地頭による荘園支配や、定期市などの産業の発達と関連付けて考察し、表現している。
32	p.74～75	5 鎌倉時代の文化と宗教	・鎌倉時代の文化や宗教にどのような特色があったかを理解する。	知技	● 鎌倉時代の文化や宗教と特色を理解している。
			・鎌倉時代の文化や宗教の特色について、これまでの時代との違いに着目して考察し、表現する。	思判表	● 鎌倉時代の文化や宗教の特色について、時代背景や文化の担い手、仏教の教えの変化に関連付けて考察し、表現している。
	p.94	■探究のステップ	・ステップチャートを活用して、国内の政治体制の変化や戦乱の推移に着目して考察・表現し、武士が政権を打ち立て、社会を変化させることができるようになった理由を理解する。	知技	○ 武士が政権を打ち立て、社会を変化させることができるようになった理由を理解している。
				思判表	○ 武士が政権を打ち立て、社会を変化させることのできるようになった理由について、戦乱と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 武家政治の成立について武士が社会を動かすほどになった理由と、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。	知識・技能	○元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。
	・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。		○南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。
	・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。		○農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。
	・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、民衆がどのように力を持つようになったか、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
33	p.76～77	1 中世のユーラシア大陸	・中世のユーラシア大陸で東西がつながっていったことを理解する。	知技	●中世のユーラシア大陸ではヨーロッパ世界とイスラーム世界がつながっていったことを理解している。
			・中世のユーラシア大陸で起きた東西のつながりを、イスラーム世界の拡大とその影響と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●中世ユーラシアで東西のつながりが生まれた理由を、イスラーム世界の拡大や十字軍の活動と関連付けて考察し、表現している。
34	p.78～79	2 モンゴル帝国とユーラシア世界	・モンゴル帝国が成立し、その拡大がユーラシア世界を形成したことを理解する。	知技	●モンゴル帝国が成立、拡大する中で、東西の交流が盛んとなり、ユーラシア世界が形成したことを理解している。
			・ユーラシア全体で一体化が見られたことを、モンゴルの帝国の拡大やムスリム商人の活動と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●ユーラシア全体で一体化が進んだことを、モンゴル帝国拡大による東西の交流やムスリム商人の活動の活発化と関連付けて考察し、表現している。
35	p.80～81	3 モンゴルの襲来	・モンゴルの襲来が日本にどのような影響を与えたかを理解する。	知技	●モンゴルの襲来が日本に北条氏への権力集中や幕府支配の動揺という影響を与えたことを理解している。
			・モンゴルの襲来と日本への影響について、主従関係に着目して考察し、表現する。	思判表	●モンゴルの襲来と日本への影響について、将軍と御家人との関係と関連付けて考察し、表現している。
36	p.82～83	4 南北朝の動乱と室町幕府	・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。	知技	●朝廷が二つに分裂した影響や、守護が新たな権限を与えられて守護大名となり、後の政治に影響を及ぼしたことを理解している。
			・室町幕府の特徴を鎌倉幕府の仕組みと比較して考察し、表現する。	思判表	●室町幕府の特徴を鎌倉幕府と比較しながら考察し、表現している。

37	p.84～85	5 東アジアとの交流	・日本が明や朝鮮とどのような関係を築いたかを理解する。	知技	●日本が明、朝鮮とどのような関係を築いたかを理解している。
			・日本と東アジアとの関係を、貿易や交易に着目して考察し、表現する。	思判表	●日本が東アジア世界でどのような外交関係を築いたかを、貿易や交易に着目して考察し、表現している。
-	p.86～87	{もっと知りたい!} 東アジア世界の国々の交流と琉球文化	・琉球王国の文化の特徴を理解する。	知技	●琉球王国が東アジア世界で活発な活動をする中で、独自の文化を築いてきたことを理解している。
			・琉球王国の文化の特徴を、東アジア世界との関係に着目して考察し、表現する。	思判表	●琉球王国の文化の特徴を、中国との関係や中継貿易と関連付けて考察し、表現している。
38	p.88～89	6 産業の発達と民衆の生活	・室町時代の産業や庶民の生活がどのように変化したかを理解する。	知技	●室町時代の産業が発展し、庶民が自治を始めるまで成長したことを理解している。
			・畿内を中心に自治的な組織が生まれたことについて、農業や産業の発達に着目して考察し、表現する。	思判表	●畿内を中心に自治的な組織が生まれたことについて、農業や商業・手工業の発達や土一揆と関連付けて考察し、表現している。
39	p.90～91	7 応仁の乱と戦国大名	・応仁の乱以降の日本がどのように変化したか理解する。	知技	●応仁の乱後、戦国大名たちによる新しい時代が始まったことを理解している。
			・応仁の乱による社会の変化について、戦国大名の支配に着目して考察し、表現する。	思判表	●応仁の乱による社会の変化について、分国法や城下町などを、これまでの支配の在り方との違いに着目して考察し、表現している。
40	p.92～93	8 室町文化とその広がり	・代表的な文化財を取り上げて、室町時代の文化の特色を理解する。	知技	●武家文化と公家文化の融合など、室町時代の文化の特色を捉えている。
			・室町時代の文化の特色を、文化の広がりや現代とのつながりに着目して考察し、表現する。	思判表	●室町時代の文化の特色を、身分や地域といった広がりや、時代を超えて受け継がれていることに着目して考察し、表現している。
	p.95	■探究のステップ	・クラゲチャートを活用して、産業の発達や国際関係、時代背景と関連付けて考察・表現し、中世の日本で民衆がどのように力をもつようになったのか、その理由を理解する。	知技	○中世の日本で民衆が力をもつようになった理由を理解している。
				思判表	○中世の日本で民衆が力をもつようになった理由を、産業の発達や国際関係、時代背景と関連付けて考察し、表現している。
				態度	●ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
41 42	p.94～97	■まとめの活動	・Xチャートを活用して、政治の動きや東アジアの情勢、産業や民衆の動きなどを関連付けて考察し・表現し、中世の日本の社会はどのように変化したのかを理解する。	知技	○中世の日本では、社会がどのように変化したかを理解している。
				思判表	○中世の日本ではどのように社会が変化したかについて、東アジアの動向や民衆の成長や活動と関連付けて考察し、表現している。
				思判表	○中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ※B(2)イ(イ)
				態度	○中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

第4章 近世の日本

(配当22時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解させる。	知識・技能	○ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解している。
	・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。		○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。
	・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。		○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。
	・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。		○社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。
	・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業、江戸幕府の成立と対外関係、産業の発達と町人文化、幕府の政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業、江戸幕府の成立と対外関係、産業の発達と町人文化、幕府の政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（導入）

(配当 1 時間)

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
43	p.98～99	■導入の活動 近世の社会の様子をとらえよう	・年表にある事柄や人物、文化財のイラストから、小学校で学習した内容を振り返る。	思判表	● 資料の読み解きや比較から、この時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・写真や年表、絵画などの資料から、近世のイメージを持ち、前の時代との違いを予想する。	態度	● 近世の日本では、社会にどのような変化が見られたかという探究課題に対して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解させる。	知識・技能	○ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解している。
	・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・世界の動きと統一事業について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●世界の動きと統一事業について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
44	p.100～ 101	1 ヨーロッパ世界の変化	・ルネサンスと宗教改革を通して、ヨーロッパ世界の変化の様子を理解する。	知技	●ルネサンスと宗教改革によりヨーロッパ世界が変化したことを理解している。
			・ヨーロッパ世界の変化を、それまでの時代との比較やヨーロッパ外との関係に着目して考察し、表現する。	思判表	●ヨーロッパ世界の変化を、前の時代の文化と違いや、ヨーロッパ外にまで活動していったことに着目して考察し、表現している。
45	p.102～ 103	2 ヨーロッパ世界の拡大	・アメリカ大陸とアフリカ大陸の様子から、ヨーロッパの世界進出の影響を理解する。	知技	●ヨーロッパの世界進出がアメリカ大陸やアフリカ大陸に及ぼした影響を理解している。
			・主にアジアとイスラム商人との関係から、ヨーロッパ人が海外に進出した理由を考察し、表現する。	思判表	●ヨーロッパ人がアジアを目指した理由を考察し、表現している。
46	p.104～ 105	3 ヨーロッパ人との出会い	・ヨーロッパの様々な文物やキリスト教が、日本社会に広まっていく様子を理解する。	知技	●ヨーロッパの様々な文物やキリスト教が、日本社会に広まっていく様子を理解している。
			・ヨーロッパ人との出会いによる日本社会の変化を、鉄砲やキリスト教と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●ヨーロッパ人との出会いによる日本社会の変化を、鉄砲やキリスト教と関連付けて考察し、表現している。
47 48	p.106～ 107	4 織田信長・豊臣秀吉による統一事業	・織田信長と豊臣秀吉によってどのように戦乱を終わらせたのかを理解する。	知技	●織田信長と豊臣秀吉によりどのように統一事業を進め、戦乱を終わらせたのかを理解している。
			・信長や秀吉がどのように戦乱を終わらせたのかを、信長の政策や統一事業の進展と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●織田信長の政策が商業を発達させたことを考察し、表現している。
				思判表	●織田信長や豊臣秀吉がどのように戦乱を終わらせたのかを、信長の経済政策や軍事行動と関連付けて考察し、表現している。
49	p.108～ 109	5 兵農分離と秀吉の対外政策	・秀吉の政策が身分制など近世の基盤をつくったことを理解する。	知技	●秀吉の政策が身分制を基にした近世の基盤を作ったことを理解している。
			・太閤検地と刀狩、朝鮮侵略によって、社会がどのように変化したかを考察し、表現する。	思判表	●兵農分離の政策によって社会の枠組みがどのように変化したかを、中世の社会と比較して考察し、表現している。

50	p.110～ 111	6 桃山文化	・ヨーロッパ人の来航によって生まれた文化の様子とその影響を理解する。	知技	● ヨーロッパ人の来航によって生まれた新しい文化について理解している。
			・桃山文化の特色を建築・絵画・芸能などから理解し、その特色が生まれた理由を考察し、表現する。	思判表	● 桃山文化の特色を、生活に根ざした文化の広がりや武将・豪商の経済力、中世の文化の継承などの視点から考察し、表現している。
	p.140	■探究のステップ	・クラゲチャートを活用して、ヨーロッパ人との出会いとその影響、信長・秀吉の統一事業などを関連付けて考察・表現し、戦乱の世が終わった理由を理解する。	知技	○ 戦乱の世が終わった理由を理解している。
				思判表	○ 戦乱の世が終わった理由について、ヨーロッパ人との出会いとその影響、信長・秀吉の政策を関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 世界の動きと統一事業について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。	知識・技能	○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。
	・統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
51	p.112～113	1 江戸幕府の成立と支配の仕組み	・江戸時代、幕府がどのように大名などを支配していたかを理解する。	知技	●様々な工夫により幕府が全国を支配していたことを理解している。
			・幕府の大名らを支配する方法の特徴を外様大名の配置や武家諸法度などに着目して考察し、表現する。	思判表	●幕府の支配方法の特徴を、大名配置や武家諸法度、朝廷・寺社との関係などに着目して考察し、表現している。
52	p.114～115	2 貿易の振興から「鎖国」へ	・幕府の対外政策の方針がどのように変化していったかを理解する。	知技	●幕府の対外政策が貿易の振興から「鎖国」へと転換したことを理解している。
			・江戸幕府の対外政策の変化について年表などを活用し、貿易やキリスト教との関係や島原・天草一揆などを関連付けて考察し、表現する。	思判表	●江戸幕府が17世紀の前半に対外政策を変化させて「鎖国」した理由を、貿易やキリスト教との関係や島原・天草一揆などを関連付けて考察し、表現している。
53	p.116～117	3 江戸時代の対外関係	・幕府による統制の中でも、各地で世界と様々な形の交流があったことを理解する。	知技	●江戸時代の日本が様々な制限をかけながら世界の国々と交流があったことを理解している。
			・幕府の世界との交流の在り方を、オランダ、中国、朝鮮に対する関わり方に着目して考察し、表現する。	思判表	●幕府がどのような交流を行っていたかを、オランダ、中国、朝鮮各国にどのような措置をとって交流していたかに着目して考察し、表現している。
54	p.118～119	4 琉球王国やアイヌ民族との関係	・江戸幕府が琉球王国やアイヌ民族とどのような関係をもったかを理解する。	知技	●幕府が琉球王国・アイヌ民族に対し、支配的な関係にあったことを理解している。
			・幕府と琉球王国・アイヌ民族との関係を、それぞれどのような関係にあったのかに着目して考察し、表現する。	思判表	●幕府の琉球王国・アイヌ民族との関係を、琉球使節の在り方やアイヌの人々の暴動などに着目して考察し、表現している。
-	p.120～121	{もっと知りたい!} アイヌ文化とその継承	・日本の文化の多様性を理解する。	知技	●日本の文化が、アイヌの文化も含めた多様なものであることを理解している。
			・日本の文化の多様性を、アイヌ文化に着目して考察し、表現する。	思判表	●日本の文化の多様性を、アイヌ文化の特徴や、文化の継承に着目して考察し、表現している。

55	p.122～ 123	5 さまざまな身分と暮らし	・江戸幕府が庶民をどのように支配していたか理解する。	知技	●江戸幕府がどのように庶民を支配していたかを理解している。
			・江戸幕府の庶民支配の方法を、身分制や役割に着目して考察し、表現する。	思判表	●江戸幕府の庶民支配の方法を、身分による区分や役割を明確にしたことに着目して考察し、表現している。
	p.141	■探究のステップ	・Yチャートを活用して、幕府の諸政策と、支配の工夫を関連付けて考察・表現し、江戸時代が約260年続いた理由を理解する。	知技	○江戸時代が約260年続いた理由を理解している。
				思判表	○江戸時代が約260年続いた理由を、幕府の諸政策の目的と関連付けて考察し、表現している。
				態度	●江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。	知識・技能	○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。
	・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。		○社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。
	・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
56	p.124～125	1 農業や諸産業の発展	・江戸時代にどのように産業が発達したか理解する。	知技	●江戸時代に農業や鉱工業といった諸産業が発展したことを理解している。
			・江戸時代の産業の発達について、農地の拡大、特産物の開発、鉱業の発達などに着目して考察し、表現する。	思判表	●江戸時代の産業の発展の理由を、新田開発や漁業の発展など各産業における生産量の増加に着目して考察し、表現している。
57	p.126～127	2 都市の繁栄と交通路の整備	・交通路が整備され、三都をはじめとする都市が発展したことを理解する。	知技	●産業や交通の発達によって貨幣経済が進展し、財力をつけた町人の力が増していったことを理解している。
			・江戸時代に交通や都市が発達した理由を、幕府や藩の政治の仕組み、物資の流通などから考察し、表現する。	思判表	●江戸時代に交通や都市が発達した理由を、幕府や藩の政治の仕組み、物資の流通などから考察し、表現している。
58	p.128～129	3 幕府政治の安定と元禄文化	・元禄時代の政治の特色や文化の特色を理解する。	知技	●元禄時代の政治が、それまでの武断政治から文治政治へと転換したことや上方で町人を中心とした文化が発展したことを理解している。
			・元禄時代の政治や文化の特色を、時代背景や文化の担い手に着目して考察し、表現する。	思判表	●元禄時代の政治や文化の特色を、儒学の広まりや、産業の発達、庶民の成長と関連付けて考察し、表現している。
59	p.130～131	4 享保の改革と社会の変化	・享保の改革が行われた時期の社会の変化を理解する。	知技	●享保の改革の時期に農村の構造変化が起き、幕府や藩が財政難で苦しんだことを理解している。
			・社会の変化の様子を、享保の改革の内容や百姓の行動と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●社会の変化を、幕府の財政難対策や百姓一揆の増加などと関連付けて考察し、表現している。
60	p.132～133	5 田沼意次の政治と寛政の改革	・田沼意次と松平定信の政治にどのような特色があったかを理解する。	知技	●田沼意次と松平定信の政治の特色を理解している。
			・田沼意次と松平定信の政治の特色を、置かれた状況の違いと二人の政策を比較しながら考察し、表現する。	思判表	●田沼意次と松平定信の政治の特色を、二人の経済政策の違い、外国の接近などの状況の比較を通して考察し、表現している。

61	p.134～ 135	6 新しい学問と化政文化	・ 18世紀～19世紀前半の学問や文化の特色を理解する。	知技	● 18世紀～19世紀前半の日本では蘭学による文化の成長や、江戸の町人を中心とした文化が発展したことを理解している。
			・ 18世紀～19世紀前半の学問や文化の特色を、蘭学や江戸の発展と関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 18世紀～19世紀前半の日本の学問や文化の特色を、学問や文化の発達とそれを生んだ庶民の活躍に着目して考察し、表現している。
62	p.136～ 137	7 外国船の出現と天保の改革	・ 幕府や諸藩がそれぞれの危機にどのように対応したかを理解する。	知技	● 幕府や諸藩が財政問題や対外問題などに様々な対応をしていたことを理解している。
			・ 幕府や諸藩の動向を、社会状況の変化や国際状況などと関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 幕府や諸藩の動向を、ききんや財政状況、外国の接近や反乱と関連付けて考察し、表現している。
	p.141	■探究のステップ	・ 社会の変化や外国の接近などを関連付けて考察・表現し、幕府が改革を迫られた背景を理解する。	知技	○ 幕府が改革を迫られた背景を理解している。
				思判表	○ 幕府が改革を迫られた背景を、社会の変化や外国の接近などと関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
63 64	p.140～ 143	■まとめの活動	・ フィッシュボーン図を活用して、近世の日本でどのような社会の変化が見られたかを理解し、その理由を中世との違いに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。	知技	○ 近世の主な人物や歴史的事象とそれらの関連を捉え、近世が安定した理由を理解している。
				思判表	○ 近世がどのように安定したかを多面的・多角的に考察し、表現している。
				思判表	○ 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ※B(3)イ(イ)
				態度	○ 近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

第5章 開国と近代日本の歩み

(配当27時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。	知識・技能	○ 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。
	・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。		○ 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。
	・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解させる。		○ 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。
	・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。		○ 我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。
	・工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・近代(前半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○ 近代(前半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
・近代(前半)の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。		主体的に学習に取り組む態度	○ 近代(前半)の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（導入）

(配当 1 時間)

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
65	p.144～145	■導入の活動 近代化とはどのようなことか考えよう	・年表にある事柄や人物、文化財のイラストから、小学校で学習した内容を振り返る。	思判表	● 資料の読み解きや比較から、この時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・写真や年表、絵画などの資料から、この時代に起こった社会の変化や近代化のイメージを持ち、前の時代との違いを予想する。	態度	● 近代化によって日本の国家や社会はどのように変化したかという探究課題に対して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。	知識・技能	○ 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。
	・工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・欧米における近代社会の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	● 欧米における近代社会の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
66	p.146～ 147	1 イギリスとアメリカの革命	・イギリスとアメリカの政治体制の変化と現代の政治とのつながりを理解する。	知技	● イギリスとアメリカが革命を経て近代国家を形成していった過程と、イギリスの議会政治が現代社会の議会制度の基となっていることを理解している。
			・イギリスとアメリカの政治体制の変化を、両国の革命やそれを支えた思想に着目して考察し、表現する。	思判表	● イギリスとアメリカの政治体制の変化を、革命とそれを支えた思想、その後の政治体制と現代の政治とのつながりを関連付けて考察し、表現している。
67	p.148～ 149	2 フランス革命	・フランスの政治体制の変化と現在の政治とのつながりを理解する。	知技	● フランスが革命を経て近代国家を形成していった過程と、人権宣言が現代社会の基本的人権の基となっていることを理解している。
			・フランスの政治体制の変化を、革命とその影響に着目して考察し、表現する。	思判表	● フランスの政治体制の変化を、革命の成果と現代の政治とのつながりに着目して考察し、表現している。
68	p.150～ 151	3 ヨーロッパにおける国民意識の高まり	・19世紀のヨーロッパ各国でどのような社会変化が起きたかを理解する。	知技	● ヨーロッパで国民国家が形成され、近代国家としてのまとまりをつくっていったことを理解している。
			・ヨーロッパ各国の社会変化を、国民の登場や国家のまとまりに着目して考察し、表現する。	思判表	● ヨーロッパ各国の社会変化を、国民の登場と、各国の近代的な政策とを関連付けて考察し、表現している。
69	p.152～ 153	4 ロシアとアメリカの拡大と発展	・ロシアとアメリカ合衆国が領土を拡大し、発展していく過程を理解する。	知技	● ロシアとアメリカ合衆国が領土を拡大し、発展して大国となっていく過程を理解している。
			・ロシアとアメリカ合衆国が拡大・発展する過程で、様々な問題を抱えていたことを考察し、表現する。	思判表	● ロシアとアメリカ合衆国が拡大・発展する過程を、貧富の差や先住民の問題、人種問題などに関連付けて考察し、表現している。

70	p.154～ 155	5 産業革命と資本主義	・産業革命が欧米諸国に与えた影響の大きさを理解する。	知技	● 産業革命による変化と資本主義社会の成立が、ヨーロッパ諸国に広がっていく過程を理解している。
			・産業革命を経て、経済の仕組みが大きく変化し、労働問題や社会問題が発生したことを考察し、表現する。	思判表	● 産業革命が欧米諸国に与えた影響を労働問題や社会主義と関連付けて考察し、表現している。
	p.198	■探究のステップ	・近代ヨーロッパの社会の変化を市民革命や産業革命と関連付けて考察・表現し、欧米諸国が世界に先駆けて発展した理由を理解する。	知技	○ 欧米諸国が世界に先駆けて発展した理由を理解している。
				思判表	○ 欧米諸国が世界に先駆けて発展した理由を、市民革命や産業革命と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 欧米における近代社会の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。	知識・技能	○ アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。
	・開国とその影響などを基に、人々の生活が大きく変化した、江戸幕府が滅亡したことを理解させる。		○ 開国とその影響などを基に、人々の生活が大きく変化した、江戸幕府が滅亡したことを理解している。
	・ヨーロッパでの工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アジア諸国の動き、江戸幕府の滅亡について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ ヨーロッパでの工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アジア諸国の動き、江戸幕府の滅亡について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・アジア諸国の動き、江戸幕府の滅亡について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○ アジア諸国の動き、江戸幕府の滅亡について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
71	p.156～157	1 欧米のアジア侵略	・欧米諸国がどのようにアジアに進出したかを理解する。	知技	● 欧米諸国がアジアに進出し、武力により植民地支配を始めたことを理解している。
			・欧米諸国のアジア進出とそれに対するアジア諸国の動きに着目して考察し、表現する。	思判表	● 欧米諸国のアジア進出の過程を、アジア諸国の抵抗運動と関連付けて考察し、表現している。
72	p.158～159	2 開国と不平等条約	・ペリー来航によって、幕府が欧米諸国とどのような外交関係を結んだか理解する。	知技	● 幕府が国内に様々な意見がある中、欧米諸国と条約を結び、開国したことを理解している。
			・幕府が結んだ欧米との外交関係を、条約の内容に着目して考察し、表現する。	思判表	● 幕府が結んだ欧米との外交関係を、条約の内容などに着目して考察し、表現している。
73	p.160～161	3 開国後の政治と経済	・開国により日本がどのような影響を受けたかを理解する。	知技	● 開国後の日本が政治的にも経済的にも混乱したことを理解している。
			・開国によって、日本が受けた影響を政治や経済と関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 開国が日本に与えた影響を、大老暗殺など国内の混乱や、物価の上昇などと関連付けて考察し、表現している。
74	p.162～163	4 江戸幕府の滅亡	・倒幕への動きや幕府の対応、外国の動きから、江戸幕府の滅亡までの経緯を理解する。	知技	● 大政奉還が行われ、江戸幕府が滅ぶまでに起こった主な経緯を理解している。
			・江戸幕府滅亡までの流れを、開国による政治的及び社会的な影響とその推移に着目して考察し、表現する。	思判表	● 江戸幕府の滅亡を、雄藩の動きと開国による生活の変化に着目して考察し、表現している。
	p.198	■探究のステップ	・欧米諸国の進出や開国、その後の幕府の対応と関連付けて考察・表現し、江戸幕府が滅んだ理由を理解する。	知技	○ 江戸幕府が滅んだ理由を理解している。
				思判表	○ 江戸幕府が滅んだ理由を、欧米諸国の進出や開国、その後の幕府の対応、民衆の生活と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● アジア諸国の動き、明治維新について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。	知識・技能	○ 富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。
	・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。		○ 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解している。
	・明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	● 明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
75	p.166～167	1 新政府の成立	・新政府の方針や諸改革の内容、中央集権国家の体制が確立していったことを理解する。	知技	● 新政府により、中央集権国家の体制が確立し、近代国家の基礎が整えられていったことを理解している。
			・新政府が樹立し、日本の社会がどのように変化したかを理解する。		
			・明治維新による社会の変化を政治制度や身分に着目して考察し、表現する。	思判表	● 明治維新によって生じた社会変化について、廃藩置県や身分制度の廃止と関連付けて考察し、表現している。
76 77	p168～169	2 明治維新の三大改革	・新政府が行った学制・兵制・税制の改革による人々の生活の変化を理解する。	知技	● 学制・兵制・税制の改革により、人々が国民としての負担を受ける生活となったことを理解している。
			・明治維新の三大改革が人々の生活に及ぼした影響について、江戸時代の生活との比較をして考察し、表現する。	思判表	● 新政府が行った学制・兵制・税制の改革の影響を、教育、兵役、税に着目して、江戸時代の制度と比較しながら考察し、表現している。
78	p.170～171	3 富国強兵と文明開化	・新政府が行った富国強兵・殖産興業政策による人々の生活の変化を理解する。	知技	● 政府による富国強兵・殖産興業政策により、近代的な産業の発展や文化の欧米化が進んだことを理解している。
			・富国強兵・殖産興業政策が人々の生活に及ぼした影響について、江戸時代の生活との比較をして考察し、表現する。	思判表	● 富国強兵・殖産興業政策による変化を、産業の発展や欧米文化の広まりに着目し、江戸時代と比較をして考察し、表現している。
79	p.172～173	4 近代的な国際関係	・明治政府は諸外国とどのような外交関係を結ぼうとしたか理解する。	知技	● 明治政府が欧米諸国とは平等な関係を、アジア諸国とは欧米諸国のような条約による外交関係を結ぼうとしていたことを理解している。
			・明治政府の外交方針を、欧米とアジアそれぞれの関係に着目して考察し、表現する。	思判表	● 明治政府が行った外交政策について、欧米諸国との関わり方や、アジア諸国との間で結ばれた条約とその内容から考察し、表現している。
80	p.174～175	5 国境と領土の確定	・明治政府が国境・領土の確定を行った意味を理解する。	知技	● 明治政府が近隣諸国との関係の中で自国の範囲を確定し、近代的な国際関係をつくらうとしたことを理解する。
			・明治政府が行った国境・領土の確定について、北海道と沖縄に着目して考察し、表現する。	思判表	● 明治政府の行った国境・領土の確定について、北海道とロシア、沖縄と中国の関係に着目して考察し、表現している。

81	p.176～ 177	6 領土をめぐる問題 の背景	・竹島、北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土になった時期や経緯と、日本政府の見解を理解する。	知技	● 竹島、北方領土、尖閣諸島の領有の歴史的な経緯と日本政府の見解を理解している。
			・竹島、北方領土、尖閣諸島について、我が国の固有の領土として人々の生活の舞台となった背景を考察し、表現する。	思判表	● これらの島の領有に関する各国の主張も踏まえ、我が国の固有の領土である背景を考察し、表現している。
82	p.178～ 179	7 自由民権運動の高まり	・自由民権運動が求めていた社会とはどのようなものか理解する。	知技	● 自由民権運動が一部の権力者だけではなく、国会をつくり幅広く人々が政治参加できることを求めていたことを理解している。
			・自由民権運動が求めていた社会について、運動の内容や憲法草案などを関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 自由民権運動が求めていた社会について、藩閥政府への不満や様々な権利を求めた憲法草案の内容を関連付けて考察し、表現している。
83	p.180～ 181	8 立憲制国家の成立	・政府が主導した憲法の制定過程、大日本帝国憲法の内容の特徴を理解する。	知技	● 憲法の制定過程とその内容の特徴、選挙制度などを理解している。
			・大日本帝国憲法制定のねらいや、現代とのつながりを理解する。	知技	● 大日本帝国憲法が立憲制国家成立のために制定され、憲法に基づいて政治が行われるという現代とのつながりを理解している。
			・議会政治が始まったことの歴史的意義や、現代の政治とのつながりを考察し、表現する。	思判表	● 大日本帝国憲法の制定過程とその内容を踏まえ、その特色と現代とのつながりについて考察し、表現している。
	p.199	■探究のステップ	・クラゲチャートを活用して、欧米諸国との関係と国内の改革を関連付けながら考察・表現し、日本がほかのアジア諸国に先駆けて近代化した理由を理解する。	知技	○ 日本が明治維新を通じて国内の改革に成功し、植民地化されることなく近代化したことを理解している。
				思判表	○ 日本がほかのアジア諸国に先駆けて、近代化に成功した理由を、欧米諸国との関係や国内の改革や国民生活の変化と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価標準の例（節全体）

指導目標	・日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解させる。	知識・技能	○日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。
	・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。		○我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。
	・議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価標準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価標準の例	
84	p.184～185	1 欧米列強の侵略と条約改正	・帝国主義が進む中、日本がどのように条約改正に成功したかを理解する。	知技	●日本が近代化を進めていったことで欧米に認められ条約改正できたことを理解している。
			・条約改正に至る過程や、欧米諸国と対等な外交関係が結ばれるまでの動きを、国内の改革と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●日本が条約改正できた経緯を、日本の近代化の推移に着目して考察し、表現している。
85	p.186～187	2 日清戦争	・日清戦争に至る流れと、その影響を理解する。	知技	●日清戦争が東アジア全体の動きの中で起き、その後の国際関係を形作ったことを理解している。
			・日清戦争の背景と影響を、国際情勢と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●日清戦争の背景と影響を、ロシアや朝鮮などの国々の動向と関連付けて考察し、表現する。
86	p.188～189	3 日露戦争	・日露戦争が起きた経緯やその影響を理解する。	知技	●日露戦争が国際社会の動向と関連して起きたことや、その後の国際社会における日本の動向に影響を与えたことを理解している。
			・日露戦争の背景や影響を、国際社会の動向と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●日露戦争の背景と影響を、中国や朝鮮の状況やイギリスの動き、日本の国際的な地位向上と関連付けて考察し、表現している。
87	p.190～191	4 韓国と中国	・韓国と中国ではどのように政治の変化が起きたかを理解する。	知技	●韓国の植民地化と中華民国が建国されたことを理解している。
			・韓国と中国の政治変化を、日本の動向や民族意識と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●韓国や中国での政治変化について、日本の植民地化や辛亥革命に着目して考察し、表現している。
88	p.192～193	5 産業革命の進展	・明治時代の産業と人々の生活の変化を理解する。	知技	●近代産業が発展して資本主義の基礎が固まった一方で様々な社会問題が生じたことを理解している。
			・明治時代の産業と人々の生活の変化を、発展と社会問題などを関連付けて考察し、表現する。	思判表	●明治時代の産業と人々の生活の変化を、発展を可能にした背景や発展の裏側で生じた国民の負担と関連付けて考察し、表現している。

89	p.194～ 195	6 近代文化の形成	・明治時代の文化の特色を理解する。	知技	● 明治時代に近代文化が形成され、学問・教育・科学・芸術などの分野で発展したことを理解している。
			・明治時代の文化の特色を、西洋の影響と日本独自の文化に着目して考察し、表現する。	思判表	● 明治時代に形成された近代文化の特色を、伝統的な文化や欧米文化と関連付けて考察し、表現している。
	p.199	■探究のステップ	・欧米諸国のアジア進出や日本の国際進出を関連付けて考察・表現し、日本が中国やロシアと戦争になった理由を理解する。	知技	○ 日本が中国やロシアと戦争をすることになった理由を理解している。
				思判表	○ 日本が中国やロシアと戦争をすることになった理由を、欧米諸国のアジア進出と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
-	p.196	[もっと知りたい!] メディアの発達が日本を変えた	・電信・電話、新聞・雑誌、映画・ラジオの始まりと役割を理解する。	知技	● 電信・電話、新聞・雑誌、映画・ラジオの始まりと役割を理解している。
			・マスメディアが、現在の私たちの生活にどのように関わっているか考察し、表現する。	思判表	● 資料の読み取りから、現代につながるマスメディアや情報環境を考察し、表現している。
-	p.197	[もっと知りたい!] 世界を大きく変えてきた感染症	・感染症が様々なかたちで社会に影響を与えてきたことを理解する。	知技	● 感染症が様々なかたちで社会に影響を与えてきたことを理解している。
			・感染症の拡大を、戦争や社会制度の変化と関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 感染症の拡大と、戦争や徴兵制など社会制度の変化とを関連付けて考察し、表現している。
90 91	p.198～ 201	■まとめの活動	・コンセプトマップを活用して、近代化による日本の変化を理解し、その理由を海外の動向などと関連付けて考察し、表現する。	知技	○ 明治時代の主な歴史的事象を理解している。
				思判表	○ 日本と世界との結び付きから明治時代の近代化による日本の変化を考察し、コンセプトマップで表現している。
				思判表	○ 近代(前半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ※C(1)イ(イ)
				態度	○ 近代（前半）の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

第 6 章二度の世界大戦と日本

(配当19時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。	知識・技能	○ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。
	・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。		○ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。
	・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・近代(後半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○ 近代(後半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・近代(後半)の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 近代(後半)の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（導入）

(配当 1 時間)

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
92	p.202～203	■導入の活動 戦争が続いた時代の出来事をふり返ろう	・年表にある事柄や人物、文化財のイラストから、小学校で学習した内容を振り返る。	思判表	● 資料の読み解きや比較から、この時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・写真や年表などの資料から、この時代のイメージを持つ。	態度	● 日本はどのようにして戦争に突入していったのかという探究課題に対して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢と、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。	知識・技能	○ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢と、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。
	・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・第一次世界大戦前後の国際情勢について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	● 第一次世界大戦前後の国際情勢について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
93	p.204～205	1 第一次世界大戦	・第一次世界大戦がどのように拡大したのか、また日本の参戦した理由を理解する。	知技	● 第一次世界大戦が列強間の対立から拡大したこと、日本が日英同盟を理由に参戦したことを理解している。
			・第一次世界大戦の拡大や日本の参戦理由を、国際情勢に関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 第一次世界大戦の拡大や日本の参戦理由を、列強や日本の拡大政策と関連付けて考察し、表現している。
94	p.206～207	2 ロシア革命	・第一次世界大戦中のロシアでどのような動きがあり、世界はどう対応したのかを理解する。	知技	● ロシア革命により社会主義国家が誕生し、各国はそれを阻止しようとしたことを理解している。
			・ロシアの動向と世界の対応を、各国の考え方に着目して考察し、表現する。	思判表	● ロシア革命と世界の対応を、大戦の影響や国民への影響、各国の政治体制に着目して考察し、表現している。
95	p.208～209	3 国際協調の高まり	・第一次世界大戦後の国際関係について理解する。	知技	● 第一次世界大戦後はベルサイユ条約に基づき、国際協調が進んだことを理解している。
			・第一次世界大戦後の国際関係について、ベルサイユ条約に着目して考察し、表現する。	思判表	● 第一次世界大戦後の国際関係について、民族自決やアメリカの動向、民主主義の広まりと関連付けて考察し、表現している。
96	p.210～211	4 アジアの民族運動	・第一次世界大戦後、アジアでのどのような運動が起きたかを理解する。	知技	● 第一次世界大戦後、アジア各国で独立運動や反帝国主義運動が起きたことを理解している。
			・第一次世界大戦後のアジアの動向を、日本の進出や民族運動を関連付けて考察し、表現する。	思判表	● 第一次世界大戦後のアジアの動向を、民族自決や日本の植民地拡大などと関連付けて考察し、表現している。
	p.240	■探究のステップ	・列強間の対立や国民生活への影響などを関連付けて考察・表現し、第一次世界大戦の原因と世界と日本への影響を理解する。	知技	○ 第一次世界大戦の原因と、世界や日本への影響を理解している。
				思判表	○ 第一次世界大戦の原因と、世界や日本への影響を、列強の拡大政策や国民生活への影響などと関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 第一次世界大戦前後の国際情勢について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きから、なぜ民主主義を求める風潮が高まったかを理解させる。	知識・技能	○ 我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きから、なぜ民主主義を求める風潮が高まったかを理解している。
	・世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	● 第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
97	p.212～213	1 大正デモクラシーと政党内閣の成立	・大正時代の社会や政治の特色について理解する。	知技	● 大正時代には大正デモクラシーという国民の政治参加への意識が高まったことを理解している。
			・大正時代の社会や政治の特色を、国民の動向に着目して考察し、表現する。	思判表	● 大正時代の社会や政治の特色について、戦争の影響や国民の意識の変化と関連付けて考察し、表現している。
98	p.214～215	2 広がる社会運動と男子普通選挙の実現	・デモクラシーの風潮がどのような運動に発展したかを理解する。	知技	● デモクラシーの風潮が高まり、社会運動が活発になり、普通選挙法が成立したことを理解している。
			・デモクラシーの風潮の高まりについて、国民の動きに着目して考察し、表現する。	思判表	● デモクラシーの風潮の高まりについて、国民の不満から起きる社会運動や普通選挙を求める運動と関連付けて考察し、表現している。
99	p.216～217	3 新しい文化と生活	・大正から昭和初期の文化や生活様式の特色を理解する。	知技	● 大正時代にはメディアが発展し、文化が大衆化したり欧米風の生活様式が広まったりしたことを理解している。
			・大正から昭和初期の文化や生活様式の特色を、教育や日本の経済状況に着目して考察し、表現する。	思判表	● 大正時代から昭和初期の文化の特色を、教育が広まったこと、経済の発展と都市での文化の広まりなどと関連付けて考察し、表現している。
	p.240	■探究のステップ	・明治時代からの国民への負担や国際情勢と関連付けて考察・表現し、大正時代に日本で民主主義の風潮が高まった理由を理解する。	知技	○ 大正時代に日本で民主主義の風潮が高まった理由を理解している。
				思判表	○ 大正時代に日本で民主主義の風潮が高まった理由を、明治時代からの国民への負担や国際情勢と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
-	p.218～219	[もっと知りたい！] 「解放令」から水平社へ	・水平社がどのような経緯で設立されたのかを理解する。	知技	● 水平社は、自由と平等を求め、「解放令」後も続く差別からの解放を求めて設立されたことを理解している。
			・水平社設立の背景を、差別の歴史に着目して考察し、表現する。	思判表	● 水平社設立の背景を、「解放令」後の状況や人々の生活の困窮と関連付けて考察し、表現している。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・経済の世界的な混乱と社会的問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。	知識・技能	○経済の世界的な混乱と社会的問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。
	・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
100	p.220～221	1 世界恐慌と各国の対策	・世界恐慌が世界にどのような影響を与えたのか理解する。	知技	●世界恐慌による各国の対応によって国際協調の流れが途絶えたことを理解している。
			・世界恐慌が世界に与えた影響を、各国の対応に着目して考察し、表現する。	思判表	●世界恐慌の影響について、恐慌の原因や各国の対応と関連付けて考察し、表現している。
101	p.222～223	2 欧米の情勢とファシズム	・ファシズムがどのように台頭してきたかを理解する。	知技	●ドイツやイタリアでは第一次世界大戦や世界恐慌後の不況や政治混乱からファシズムが台頭したことを理解している。
			・ファシズム台頭の理由を、第一次世界大戦や世界恐慌後の各国の経済状況と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●ファシズムが台頭した理由を、戦争や世界恐慌の影響や国民の不満と関連付けて考察し、表現している。
102	p.224～225	3 昭和恐慌と政党内閣の危機	・昭和に入り、日本の政党政治がどのような危機を迎えたか理解する。	知技	●日本の政党政治が、不況や東アジアへの外交の面で国民からの信頼を失っていったことを理解している。
			・日本の政党政治の危機を、経済状況や国際情勢を関連付けて考察し、表現する。	思判表	●日本の政党政治の危機を、恐慌や中国情勢への対応と関連付けて考察し、表現している。
103	p.226～227	4 満州事変と軍部の台頭	・満州事変後の日本の政治の変化を理解する。	知技	●満州事変後の日本では政党政治が終わり、国際的にも孤立したことを理解している。
			・満州事変後の日本の政治の変化を、国内の混乱や国際情勢に着目して考察し、表現する。	思判表	●満州事変後の日本の政治の変化を、軍部の台頭や国際関係の変化に着目して考察し、表現している。
104	p.228～229	5 日中戦争と戦時体制	・日中戦争への経緯と国民への影響を理解する。	知技	●日本が大陸への進出を強め、日中戦争が発生し、その結果国民生活は戦時体制へ移行していったことを理解している。
			・日中戦争への経緯と国民への影響を軍部の動向や戦時体制に着目して考察し、表現する。	思判表	●日中戦争への経緯とその影響について、政府と軍部の関係や国民生活への統制に着目して考察し、表現している。
	p.241	■探究のステップ	・国際的な関係と各国の経済状況を関連付けて考察・表現し、日本が日中戦争に突入した理由を理解する。	知技	○日本が日中戦争に向かった理由を理解している。
				思判表	○日本が日中戦争に向かった理由を、国際的な経済状況と関連付けて考察し、表現している。
				態度	●第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。	知識・技能	○昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。
	・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・第二次世界大戦と人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決させる。	主体的に学習に取り組む態度	●第二次世界大戦と人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
105	p.230～ 231	1 第二次世界大戦の 始まり	・第二次世界大戦がなぜ起こり、拡大したか理解する。	知技	●ドイツの侵略により第二次世界大戦が始まり、各国の参戦で拡大したことを理解している。
			・第二次世界大戦が起き、拡大した理由を、ヨーロッパ諸国の動向に着目して考察し、表現する。	思判表	●第二次世界大戦が起き、拡大した理由を、ドイツの動向やファシズムとの戦いに着目して考察し、表現している。
106	p.232～ 233	2 太平洋戦争の開始	・太平洋戦争が起こった理由を理解する。	知技	●日中戦争が長期化する中、日米関係が悪化して太平洋戦争が始まったことを理解している。
			・太平洋戦争が起こった理由を、日中戦争の推移と日米を中心とした外交関係に関連付けて考察し、表現する。	思判表	●太平洋戦争が始まった理由を、日中戦争の長期化やアメリカとの関係と関連付けて考察し、表現している。
107	p.234～ 235	3 戦時下の人々	・戦争の長期化が国民にどのような影響を与えたか理解する。	知技	●戦争の長期化により国民生活が苦しくなっていく中で戦争に協力していったことを理解している。
			・戦争の国民への影響について、国内や植民地・占領地への政策に着目して考察し、表現する。	思判表	●戦争の国民への影響について、国内の戦争協力や植民地等での強制動員などに着目して考察し、表現している。
108	p.236～ 237	4 戦争の終結	・第二次世界大戦はどのような経過で終結したか理解する。	知技	●アメリカを中心とした連合軍により枢軸国も日本も多大な犠牲を出し戦争が終結したことを理解している。
			・第二次世界大戦終結の経過を、時系列や被害の拡大に着目して考察し、表現する。	思判表	●第二次世界大戦終結の経過を、ドイツの降伏、沖縄戦や原爆投下などに着目して考察し、表現している。
	p.241	■探究のステップ	・国際関係の変化や被害の大きさ、戦時下の国民生活を関連付けて考察・表現し、第二次世界大戦が起きた理由と世界や日本に与えた影響を理解する。	知技	○第二次世界大戦の原因と、世界や日本への影響を理解している。
				思判表	○第二次世界大戦の原因と、世界や日本への影響を、大戦下の国民生活と関連付けて考察し、表現している。
				態度	●第二次世界大戦と人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

109 110	p.240～ 243	■まとめの活動	・くま手チャートを活用して、日本がどのように戦争に突入していったかを理解し、その理由を国際情勢や国内の経済状況などと関連付けて考察し、表現する。	知技	○日本がどのように戦争に向かっていったかについて理解している。
				思判表	○主に大正時代から昭和時代の特色を、前の時代の出来事や現代と関連付けて考察し、表現している。
				思判表	○近代(後半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ※C(1)イ(イ)
				態度	○近代(後半)の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

第7章 現代の日本と私たち

(配当14時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・ 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。	知識・技能	○ 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。
	・ 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。		○ 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。
	・ 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○ 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。		○ これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	・ これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（導入）

(配当 1 時間)

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
111	p.244～245	■導入の活動 戦後日本の歩みを考えよう	・ 年表にある事柄や人物、文化財のイラストから、小学校で学習した内容を振り返る。	思判表	● 資料の読み解きや比較から、この時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・ 写真や年表などの資料から、この時代のイメージを持つ。	態度	● 戦後の日本はどのようなことをきっかけに成長してきたかという探究課題に対して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・我が国の民主化と再建の過程などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。	知識・技能	○我が国の民主化と再建の過程などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。
	・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・日本の民主化について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●日本の民主化について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
112	p.246～247	1 占領下の日本	・敗戦後に占領された日本はどのような状況だったのか理解する。	知技	●終戦後の日本国民が苦難の生活を送る中で、GHQが非軍事化などの新しい日本につながる占領政策を進めたことを理解している。
			・占領下の日本の状況を、国民生活とGHQの政策に着目して考察し、表現する。	思判表	●終戦後の日本の様子について、GHQによる占領政策や、闇市など国民生活に着目して考察し、表現している。
113	p.248～249	2 民主化と日本国憲法	・日本国憲法が制定され、日本はどのように変化したか理解する。	知技	●新しい憲法の制定で人権が保障された民主的な国家が建設されたことを理解している。
			・新しい憲法による日本の変化を、大日本帝国憲法と比較しながら考察し、表現する。	思判表	●新しい憲法の制定による日本の変化を、大日本帝国憲法との比較から考察し、表現している。
	p.270	■探究のステップ	・GHQによる占領政策や新しい憲法による変化を戦前と比較して考察・表現し、戦後の諸改革によって、民主的な国家が建設されたことを理解する。	知技	○GHQの占領政策の影響や戦前の反省から、民主的な国家が建設されたことを理解している。
				思判表	○日本国憲法の制定などによって、国民主権、人権の保障などの面で民主的な国家になったことを考察し、表現している。
				態度	●日本の民主化について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・冷戦、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。	知識・技能	○冷戦、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。
	・高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。		○高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。
	・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。		○諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。		●冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
		主体的に学習に取り組む態度	

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
114	p.250～251	1 冷戦の開始と植民地の解放	・冷戦がはじまり世界はどのように変化したか理解する。	知技	●資本主義と共産主義が対立する中で冷戦が発生し、国家の分裂や、植民地支配の終結など、新たな国際体制が生まれたことを理解している。
			・冷戦による世界の変化をアメリカとソ連などの動向に着目して考察し、表現する。	思判表	●冷戦という新たな国際体制の成立と影響を、アメリカとソ連の動向や中国・朝鮮の動向に着目して考察し、表現している。
115	p.252～253	2 独立の回復と55年体制	・日本がどのような背景で国際社会に復帰したかを理解する。	知技	●冷戦によってアメリカの占領方針が転換し、日本が資本主義国の一員として国際社会に復帰し、アメリカとの関係を重視した安定政権が生まれたことを理解している。
			・日本がこの時期に国際社会に復帰できた理由を、国際情勢と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●日本の国際社会への復帰を、冷戦の進展とアメリカの意向と関連付けて考察し、表現している。
116	p.254～255	3 緊張緩和と日本外交	・緊張緩和の広がりとはどのような関係があったか理解する。	知技	●沖縄の日本復帰や日本の東側諸国との外交の広がりが緊張緩和の中で行われたことを理解している。
			・日本の外交の広がりと国際情勢を関連付けて考察し、表現する。	思判表	●日本の外交の広がりと緊張緩和の流れについて時系列に着目しながら関連付けて考察し、表現している。
117	p.256～257	4 日本の高度経済成長	・日本の経済成長は国民の生活をどのように変化したか理解する。	知技	●経済成長と技術の向上によって、国民が豊かな生活を送れるようになった一方で、公害等の問題が発生したことを理解している。
			・経済成長による国民生活の変化を、生活の様子や環境問題と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●日本の経済成長が国民の生活に与えた変化を、国内外での功績と軋轢に着目しながら考察し、表現している。

118	p.258～ 259	5 マスメディアと現代の文化	・現代日本の文化がどのように変わってきたかを理解する。	知技	● 現代日本の文化は、マスメディアが社会の発展とともに変化し、国民が同じ内容の情報を持てるようになったことを理解している。
			・現代日本の文化の変化を、メディアの発達に着目して考察し、表現する。	思判表	● 現代日本の文化の変化を、テレビの普及などメディアの発達や経済成長による生活の向上と関連付けて考察し、表現している。
	p.270	■探究のステップ	・国内情勢と世界情勢を関連付けて考察・表現し、冷戦下の日本が経済成長することができた理由を理解する。	知技	○ 冷戦下の日本が経済成長できたことを理解している。
				思判表	○ 冷戦下で日本が経済成長することができた理由について、世界情勢と関連付けて考察し、表現している。
				態度	● 冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。	知識・技能	○国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。
	・国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・日本の経済の発展とグローバル化する世界について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●日本の経済の発展とグローバル化する世界について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
119	p.260～ 261	1 冷戦後の国際社会	・冷戦終結後の世界の変化と課題について理解する。	知技	●冷戦が終結し、国際協調による地域統合が進む一方で、国家を超えた紛争が多発していることを理解している。
			・冷戦終結後の世界の変化と課題について、国際協調や地域紛争など国家の関わり方に着目して考察し、表現する。	思判表	●冷戦終結後の世界で、国家の枠組みを超えた問題が発生していることに着目して考察し、表現している。
120	p.262～ 263	2 変化する冷戦後の日本	・冷戦後の日本の課題について理解する。	知技	●冷戦後の日本の課題が、対外的には他国との歴史的関係の中から、国内的には経済的な好景気の反動により発生していることを理解している。
			・冷戦終結後の日本の課題を、その原因や現在の問題と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●冷戦後の日本の課題の原因が過去にあり、現在でも続いていることを考察し、表現している。
121	p.264～ 265	3 持続可能な社会の実現に向けて	・現在の日本がどのような課題を抱えているか理解する。	知技	●日本には災害や少子高齢化の他にもグローバル化など世界的規模の課題があることを理解している。
			・現在の日本の課題をSDGsと関連させて、どのように解決すべきかを考察し、表現する。	思判表	●現在の日本の課題をSDGsと関連させて、どのように解決すべきかを考察し、表現している。
	p.271	■探究のステップ	・トゥールミン図式を活用して、現代日本が解決すべき課題とその理由を関連付けて考察・表現し、よりよい社会を創っていくために必要なことを理解する。	知技	○よりよい社会を創っていく上で必要なことを理解している。
				思判表	○よりよい社会を創っていくために、現代日本の課題とその解決による影響に着目して考察し、表現している。
	p.266～ 267	[もっと知りたい！] 日本のエネルギーのこれまで	・明治以降の日本人の生活とエネルギーとの関わりを理解する。	知技	●明治以降の日本人がさまざまなエネルギーを活用して、生活を向上させてきた一方で、今後のエネルギー利用には課題があることを理解している。
			・日本人の生活とエネルギーとの関わりを、持続可能性に着目して考察し、表現する。	思判表	●日本人の生活とエネルギーとの関わりを、資源の確保や原発問題、環境問題と関連づけて考察し、表現している。
	p.268～ 269	[もっと知りたい！] 震災の記憶を語りつぐ	・各地に残る震災に関する伝承には、どのような意味があるかを理解する。	知技	●各地に残る震災に関する伝承は、同じ災害が起こり、再び命が失われないために、先人が残したものであるという共通点を理解している。
			・震災に関する伝承の意味を、被害や人々の思いと関連づけて考察し、表現する。	思判表	●震災に関する伝承の意味を、被害の大きさや人々が後世に残そうとした思いと関連づけて考察し、表現している。

122 123	p.270～ 273	■まとめの活動	・ピラミッドランキングを活用して、戦後の日本がどのようなことをきっかけに成長してきたかを理解し、その理由を国際情勢や国内の政治状況と関連付けて考察し、表現する。	知技	○戦後の日本がどのように発展してきたか理解している。
				思判表	○戦後の日本の発展について、世界の情勢や国際社会における日本の位置付けと関連付けて考察し、表現している。
				思判表	○現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ※C(2)イ(イ)
				態度	○現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
124	p.274～ 275	■歴史のまとめ	・これからの世界や日本の課題を理解し、どのように解決すべきかを考察、構想し、表現する。	知技	○これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ※C(2)イ(ウ)